

地場産農産物を学校給食へ



ネギの収穫（島山リポーターの畑）

生産農家 安全で安心して 食べられる 農産物作りを

次に生産農家を訪ね、菅原美津子さん（羽立）から、お話を伺いました。

「学校給食に出せるようになる、この話を受けてから、野菜の作付面積を増やすことにしました。私がつ作った野菜を、自分の孫のような近所の子供たちに食べてもらえると考えると、大変誇りに思えてきました。ジャガイモや大根の土寄せをするたびに『学校給食に出すんだから』学校給食に出すんだから」と考え、力が入りました。

供給会 地産地消運動を 一歩一歩前進させたい

これからも、安全で安心して食べられる野菜作りを続けたいと思っています」と話してくれました。

今回の取材の最後に、フレッシュ野菜供給会の田山会長から、今後の抱負などを伺いました。

「学校給食への地産地消運動は、生産者対消費者ということだけでなく、次代を担う子供たちに、食糧の生産活動に対する理解を深めてもらい、食の大切さや望ましい食生活を育む上での、貴重な学習体験の場であると考えます。新鮮で、安心・安全な農産物を

提供することで、地産地消運動を一歩一歩前進させていけたらいいなと思っています」

おわりに

私は、このリポートの取材前には、学校給食で「地産地消」することで、生産者にとっても子供たちにとっても、良いことだという、漠然とした気持ちしか持っていませんでした。

この取材で一番驚いたことは、学校・給食センターにおける「安全対策」でした。私たち生産者はもちろん、安全でおいしい農産物を納品することが、当然の義務であると考えていますし、特に給食センターへ納める際には気を遣っています。でも、学校側の安全対策を実際に目で見たことで、そして「おいしい」といつてくれた子

供たちの笑顔を見たことで、生産者も更なる努力をしなければならぬと感じました。

地産地消運動の一環として学校給食に地場産農産物を取り入れていただいたことは、生産者としてとてもやりがいのあることです。また、子供たちにとっては、旬の野菜から自然の豊かさを知ることができ、農業に関心を持つことができますので、とても有意義なことだと感じました。

これからも、陽気な母さんの店の会員として、地産地消運動を推進しながら、伸び盛りの子供たちにおいしくて新鮮で、安全・安心な地場産農産物を供給していきたいと思っています。

取材にご協力くださいました、成章小学校の日景校長先生、栄養士の榎木先生始め、多くの皆さんに心からお礼を申し上げ、結びとします。



▲ 給食センターへ野菜を搬入する陽気な母さんの店の会員

